



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月10日

上場会社名 株式会社アイリッジ 上場取引所 東
コード番号 3917 URL https://iridge.jp
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）小田 健太郎
問合せ先責任者 （役職名）取締役CFO （氏名）森田 亮平 TEL 03-6441-2325
半期報告書提出予定日 2025年11月10日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		調整後営業利益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	3,187	3.9	△83	—	△127	—	△113	—	658	—
2025年3月期中間期	3,068	26.6	88	—	68	—	64	—	34	—

（注）1. 包括利益 2026年3月期中間期 655百万円（－％） 2025年3月期中間期 30百万円（－％）

2. 調整後営業利益＝営業利益＋株式報酬費用＋M&Aにより生じた無形固定資産の償却費用＋その他一時費用

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	84.35	83.90
2025年3月期中間期	4.57	4.56

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	5,226	3,052	58.0
2025年3月期	5,960	2,572	41.7

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 3,033百万円 2025年3月期 2,483百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00			
2026年3月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		調整後営業利益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	7,200	7.3	300	15.8	270	23.2	260	25.0	800	—
										102.61

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 一社 (社名) ー、除外 1社 (社名) 株式会社フィノバレー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期中間期	7,829,354株	2025年3月期	7,796,454株
2026年3月期中間期	170株	2025年3月期	170株
2026年3月期中間期	7,807,790株	2025年3月期中間期	7,504,994株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料は、TDnetで同日開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(重要な後発事象の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループは、「Tech Tomorrow 〜テクノロジーを活用して、わたしたちがつくった新しいサービスで、昨日よりも便利な生活を創る〜」をミッションとして掲げ、このミッションの下、アプリビジネス事業、ビジネスプロデュース事業、フィンテック事業の3つの報告セグメントとして、開発力とビジネス創出力という当社グループの強みを活かした様々なサービスを展開しています。アプリビジネス事業では、小売・金融・モビリティ業界を中心とした顧客企業に対して、スマートフォンアプリの企画・開発・運用支援やアプリマーケティングツール

「FANSHIP」やアプリビジネスプラットフォーム「APPBOX」をSaaS型で提供しています。ビジネスプロデュース事業では、顧客企業のパートナーとして事業戦略・DX戦略の立案からサービス開発・グロースハックまでを一気通貫して支援し、顧客企業の新規事業開発やマーケティングに関する課題をワンストップで解決しています。また、フィンテック事業では、主に地方自治体や金融機関に対して、地域で発行・利用可能な通貨や商品券を電子化して流通させるデジタル地域通貨プラットフォーム「MoneyEasy」を提供しています。

当社グループでは、今後の更なる成長とミッションの実現に向け、2027年3月期を最終年度とする3カ年の中期経営計画を2024年5月に策定しました。本中期経営計画においては「当社グループの強みである開発力とビジネス創出力を活かした顧客企業のTech & Innovation Partnerへの成長」というテーマを掲げ、5つの成長戦略を掲げています。これらの成長戦略の実行を通じて、当社グループの開発力やビジネス創出力の活用と顧客企業とのパートナーシップの強化による顧客提供価値の向上を図り、事業領域を拡張していくことを目指しています。

当中間連結会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)においては、アプリビジネス事業では、スマートフォンアプリの開発体制の強化及びアプリビジネスプラットフォーム「APPBOX」への投資を継続したほか、前年に実施した複数の資本業務提携に基づく各種施策を推進し、「アプリビジネス事業の継続成長」と「アプリ以外のDX領域への展開」に取り組みました。ビジネスプロデュース事業では、今後の事業拡大を見据えた組織体制の強化を継続しました。

以上の結果、売上高3,187,726千円(前年同期比3.9%増)、調整後営業損失83,619千円(前年同期は調整後営業利益88,170千円)、営業損失127,043千円(前年同期は営業利益68,634千円)、経常損失113,929千円(前年同期は経常利益64,737千円)、親会社株主に帰属する中間純利益658,609千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益34,265千円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりです。

以下のセグメント別売上高及び利益又は損失には、セグメント間の内部取引に係る金額を含んでいます。

(アプリビジネス事業)

アプリビジネス事業では、既存顧客を中心にスマートフォンアプリの開発案件等を堅調に受注しており、また、資本業務提携に基づき、スマートフォンアプリ開発を軸としたデジタルサービスの開発提案活動の強化やEX-DX(注)領域における新たなサービスの開発等の取り組みを進めました。費用面では、スマートフォンアプリの開発体制の強化に伴い原価が増加したことに加え、EX-DX領域におけるソフトウェア償却費等が増加しました。この結果、当セグメントの売上高は2,392,658千円(前年同期比18.8%増)となり、セグメント利益は388,773千円(前年同期比1.8%増)となりました。

(ビジネスプロデュース事業)

ビジネスプロデュース事業では、今後の事業拡大を見据えた組織体制の強化を継続しており、新規顧客の獲得が進捗しましたが、前年同期は例年下期に発生している大型案件が上期に発生した影響から、前年同期比では売上高が減少しました。この結果、当セグメントの売上高は704,531千円(前年同期比19.1%減)となり、セグメント損失は6,730千円(前年同期はセグメント利益74,058千円)となりました。

(フィンテック事業)

フィンテック事業では、デジタル地域通貨プラットフォーム「MoneyEasy」の既存導入先を中心に取引が拡大しました。費用面では、ソフトウェア償却費や組織体制の拡充に伴い人件費が増加しました。この結果、当セグメントの売上高は91,847千円(前年同期比50.6%減)となり、セグメント損失は27,656千円(前年同期はセグメント損失22,952千円)となりました。

なお、2025年7月1日付で、同事業を構成する当社の連結子会社であった株式会社フィノバレーの全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したため、売上高及びセグメント損失は、2025年4月1日から2025年6月30日までの実績となります。

(注) EX-DX(Employee Experience Digital Transformation)とは、従業員が会社で働く中で経験する様々なことに関する課題を、スマートフォンアプリなどのデジタル技術を使って解決し、従業員の満足度を高める取り組みをいいます。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて734,360千円減少の5,226,529千円となりました。これは主に、現金及び預金が126,161千円減少、売掛金が439,538千円減少、繰延税金資産が143,328千円減少したことによるものです。

(負債)

当中間連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末と比べて1,214,007千円減少の2,174,301千円となりました。これは主に、買掛金が148,344千円減少、賞与引当金が166,256千円減少、預り金が672,745千円減少したことによるものです。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末と比べて479,646千円増加の3,052,227千円となりました。これは主に、資本剰余金が116,847千円減少した一方、利益剰余金が658,609千円増加したことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、2,612,766千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間の営業活動により得られた資金は、303,873千円(前年同期は257,234千円の資金減)となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益793,677千円、関係会社株式売却益919,919千円、売上債権及び契約資産の減少額387,735千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間の投資活動により使用した資金は、78,123千円(前年同期は212,711千円の資金減)となりました。これは主に、当社のプロダクトの開発等に伴う無形固定資産の取得による支出274,778千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入195,402千円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間の財務活動により使用した資金は、351,911千円(前年同期は65,148千円の資金増)となりました。これは、長期借入金の返済による支出155,000千円、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出196,911千円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年6月30日の「(開示事項の経過)連結子会社の異動(株式譲渡)に関する株式譲渡契約締結および特別利益の計上見込みならびに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,738,928	2,612,766
売掛金	1,503,849	1,064,310
契約資産	157,846	148,575
電子記録債権	275	735
仕掛品	17,999	77,984
その他	187,501	189,632
貸倒引当金	△51,000	△52,980
流動資産合計	4,555,400	4,041,025
固定資産		
有形固定資産	35,712	26,540
無形固定資産		
ソフトウェア	958,304	877,286
ソフトウェア仮勘定	—	21,667
その他	99	72
無形固定資産合計	958,404	899,026
投資その他の資産		
投資有価証券	97,988	98,312
繰延税金資産	238,975	95,646
その他	74,409	65,977
投資その他の資産合計	411,372	259,936
固定資産合計	1,405,489	1,185,503
資産合計	5,960,889	5,226,529
負債の部		
流動負債		
買掛金	537,699	389,354
短期借入金	500,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	260,000	210,000
未払法人税等	84,253	73,871
賞与引当金	272,796	106,539
預り金	689,991	17,246
資産除去債務	1,654	—
その他	254,212	192,612
流動負債合計	2,600,608	1,489,625
固定負債		
長期借入金	747,500	642,500
資産除去債務	40,200	42,176
固定負債合計	787,700	684,676
負債合計	3,388,308	2,174,301
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,370,326	1,378,403
資本剰余金	1,538,543	1,421,695
利益剰余金	△424,644	233,964
自己株式	△270	△270
株主資本合計	2,483,954	3,033,793
新株予約権	13,565	18,434
非支配株主持分	75,061	—
純資産合計	2,572,580	3,052,227
負債純資産合計	5,960,889	5,226,529

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位: 千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	3,068,572	3,187,726
売上原価	2,083,084	2,275,494
売上総利益	985,488	912,231
販売費及び一般管理費	916,853	1,039,275
営業利益又は営業損失(△)	68,634	△127,043
営業外収益		
受取利息	1,005	1,941
受取配当金	200	—
持分法による投資利益	—	324
受取手数料	1,986	5,272
受取保険金	—	13,640
キャッシュバック収入	899	—
助成金収入	1,508	—
その他	231	2,550
営業外収益合計	5,831	23,729
営業外費用		
支払利息	4,137	7,864
株式交付費	5,453	—
為替差損	45	80
和解金	—	2,666
その他	92	4
営業外費用合計	9,729	10,616
経常利益又は経常損失(△)	64,737	△113,929
特別利益		
関係会社株式売却益	—	919,919
特別利益合計	—	919,919
特別損失		
減損損失	—	3,957
自己新株予約権消却損	—	8,354
特別損失合計	—	12,312
税金等調整前中間純利益	64,737	793,677
法人税、住民税及び事業税	5,393	56,608
法人税等調整額	27,506	81,535
法人税等合計	32,900	138,143
中間純利益	31,836	655,534
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△2,429	△3,074
親会社株主に帰属する中間純利益	34,265	658,609

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	31,836	655,534
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,567	—
その他の包括利益合計	△1,567	—
中間包括利益	30,268	655,534
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	32,698	658,609
非支配株主に係る中間包括利益	△2,429	△3,074

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	64,737	793,677
減価償却費	154,041	199,619
のれん償却額	9,519	—
減損損失	—	3,957
株式報酬費用	10,016	12,514
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	1,980
賞与引当金の増減額(△は減少)	△80,575	△173,815
受取利息及び受取配当金	△1,205	△1,941
支払利息	4,137	7,864
株式交付費	5,453	—
持分法による投資損益(△は益)	—	△324
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△919,919
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	△124,197	387,735
未収入金の増減額(△は増加)	2,035	△25,505
棚卸資産の増減額(△は増加)	△36,844	△60,386
仕入債務の増減額(△は減少)	△62,280	△135,732
未払金の増減額(△は減少)	19,978	24,883
未払費用の増減額(△は減少)	△25,865	△9,380
未払消費税等の増減額(△は減少)	△30,041	△46,792
未払法人税等(外形標準課税)の増減額 (△は減少)	2,983	△964
預り金の増減額(△は減少)	△187,930	300,262
その他	△9,382	18,078
小計	△285,420	375,810
利息及び配当金の受取額	1,205	1,941
利息の支払額	△4,137	△7,864
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	31,118	△66,014
営業活動によるキャッシュ・フロー	△257,234	303,873
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△298	△2,448
無形固定資産の取得による支出	△212,412	△274,778
資産除去債務の履行による支出	—	△1,654
差入保証金の差入による支出	—	△1,800
差入保証金の回収による収入	—	7,156
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の売却による収入	—	195,402
投資活動によるキャッシュ・フロー	△212,711	△78,123
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△120,000	△155,000
株式の発行による収入	184,498	—
新株予約権の発行による収入	650	—
連結の範囲の変更を伴わない 子会社株式の取得による支出	—	△196,911
財務活動によるキャッシュ・フロー	65,148	△351,911
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△404,796	△126,161
現金及び現金同等物の期首残高	2,871,732	2,738,928
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,466,936	2,612,766

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

Ⅰ 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	アプリ ビジネス事業	ビジネス プロデュース 事業	フィンテック 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,011,861	870,917	185,794	3,068,572	—	3,068,572
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,440	—	—	1,440	△1,440	—
計	2,013,301	870,917	185,794	3,070,012	△1,440	3,068,572
セグメント利益又は セグメント損失(△)	381,939	74,058	△22,952	433,045	△364,410	68,634

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額のうち、9,605千円はセグメント間取引消去、△374,016千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	アプリ ビジネス事業	ビジネス プロデュース 事業	フィンテック 事業 (注) 3	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,391,346	704,531	91,847	3,187,726	—	3,187,726
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,311	—	—	1,311	△1,311	—
計	2,392,658	704,531	91,847	3,189,037	△1,311	3,187,726
セグメント利益又は セグメント損失(△)	388,773	△6,730	△27,656	354,386	△481,430	△127,043

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額のうち、5,272千円はセグメント間取引消去、△486,703千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

3. 「フィンテック事業」については、2025年7月1日付で、同事業を構成する当社の連結子会社であった株式会社フィノバレーの全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したため、売上高及びセグメント損失は、2025年4月1日から2025年6月30日までの実績となります。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当中間連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社フィノバレーの全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しています。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当中間連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「フィニテック事業」において1,357,991千円減少しています。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アプリビジネス事業」において、当社の連結子会社である株式会社プラグインの事業用資産の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しました。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては3,957千円です。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象の注記)

該当事項はありません。